

小中学校における ICT 教育担当者の力量形成に向けて -授業におけるタブレット PC の活用事例を生かした研修プログラムの開発-

学籍番号 169962

氏名 高橋 孝洋

大学院主指導教員 木原 俊行

1. ICT 活用に求められているもの

第1章では、国や寝屋川市の学校におけるICT活用状況に関する章であり、文部科学省の調査をもとにICT活用状況やICT活用指導力について論じる。

第1節「ICT活用の現状」では、文部科学省の教育振興基本計画によると、ICTの活用等による新たな学びの推進として、できるだけ早期に全ての教員がICTを活用した指導ができることを目指し、教員のICT活用指導力向上のための必要な施策を講じるとされている。とあるように国の調査などをもとに学校におけるICT活用の現状について述べる。

第2節「全国のICT機器の整備」では、全国のICT機器の整備状況及びについて述べる。文部科学省の「平成27年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」をもとに教育用コンピュータ1台あたりの児童生徒数、普通教室の校内LAN整備率、電子黒板の整備状況、教員の校務用コンピュータ整備率、校務支援システム整備率などICT機器の整備状況を明らかにする。

第3節「寝屋川市のICT機器の整備」では、寝屋川市のICT機器整備の状況ではどうであるかを文部科学省の「平成27年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」をもとに、教員のICT活用指導力調査の実態とあわせて詳述する。

2. 校内 ICT 教育担当者の力量形成

第2章は、ICT教育担当者の現状を明らかにし、PDCAサイクルにおいて系統的なICT教育担当者研修の企画・実施について論じる。

第1節「ICT教育担当者の現状」では、インタビューやアンケートで得た知見をもとにICT教育担当者の現状について述べる。

第2節「ICT担当者研修会の企画」では、校内でのICT活用を推進するための手立てや方策について検討し、連続的に学ぶ機会として、担当者研修会の年間計画の構想について述べる。

第3節「ICT教育担当者研修会の実施」では、全4回の担当者研修会がPDCAサイクルにより

実施されることについて論じる。また、各回の担当者研修会については、ねらいと計画、様子と実際、評価、改善を記す。

3. 研修会を通しての ICT 教育担当者の変容

第3章は、ICT教育担当者研修会を通して、各校での実践をもとにした実態アンケートや実態インタビューからICT教育担当者の変容について論じる。

第1節「実態アンケート実施」では、ICT教育担当者への実態アンケートの時期と方法について記す。また、アンケート結果からICT教育担当者の変容について考察する。

第2節「実態インタビュー実施」では、抽出したICT教育担当者へのインタビューを通して、担当者の力量形成における変容について述べる。

第3節「ICT教育担当者の成長と課題」では、実態把握のためのアンケートやインタビューからICT教育担当者の成長と課題について言及する。

4. 今後の研修会の充実

第4章は、これまでに明らかになったことをもとに他との連携を踏まえて、次年度、改善していくべき点について論じる。

第1節「次年度の研修会の改善」では、平成29年度に系統的に実施したICT教育担当者研修会について、次年度の改善へとつなげる視点を内容もふくめて明記する。

第2節「他との連携を通じたアプローチ」では、各学校におけるICT活用がさらに推進されるように、他との連携の必要性について言及する。